



世界に一つの手作り家具、 創作職人世界一を目指す



▲山ノ木が誇る職人たちの製作家具。



▲家具展示場に飾られた製作家具の写真。



▲本社工場の作業風景。

**わからないことはメモで必ず確認
技能競技大会に積極的に参加して
卓越した技能を身につける**

取り組みの経緯 確実な指示の伝達と技術の 伝承に向けて

聴覚障害者は健聴者と比較して、職場で得る情報が少なくなりがちである。そのため、指示を勘違いしてしまったり、十分に理解していなかったりすることがある。口話では指示を読み取ることに時間もかかり、誤って理解してしまうこともあった。家具製造の職場では、電動工具や機械を扱う

場面が多く、指示の勘違いや理解不足が事故につながる恐れもある。指示を確実に理解するための改善に取り組む必要があった。
また、家具職人として一生続けるために必要な技能の伝承にも力を入れていた。



▲会社社屋。



	改善前の状況	改善後の効果	
伝達方法の改善	伝達事項を口話で伝えていたが、時間を要するだけでなく、指示内容を十分に伝えることも難しかった。	1週間の作業工程表と連絡事項を文書で配布することで、伝達事項が正確に伝わり作業もスムーズに進めることができた。	注目の改善点 1
安全管理の徹底	安全確認と指示の伝達方法について、筆談のみでは不安であり、確実性に乏しかった。	ペアで作業を徹底し、機械、工具類の取り扱いについて実技指導し、質問点はメモや図によりフィードバックを徹底させたことで不安を払拭した。	注目の改善点 2
技術向上をサポート	技術向上のため技能検定への挑戦。	2名の聴覚障害者が一級技能検定に合格し、障害者技能競技大会(アビリンピック)の世界大会に家具部門日本代表として出場している。	注目の改善点 3



▲山ノ木の従業員。



▲堀 健次さん。



▲鈴木 眞道さん。

事業所の概要と障害者雇用の経緯

“より自然・より自由・より個性的な”をモットーに人と環境に優しいオーダー家具を提供している株式会社山ノ木は、昭和49年12月に山ノ木家具として創業(平成2年9月に株式会社山ノ木に組織変更)。
障害者雇用のきっかけは、昭和56年に採用した聴覚障害者との出会いだった。「図面が読めること、何より手先が器用であることを見込んでの採用だったが、初めての障害者雇用であり、不安もあった。しかし、彼のひた向きに取り組む姿勢に職人として一本立ちしてほしいと思った」(代表取締役社長和中輝雄さん)
「世界に一つの手作り家具、創作職人世界一」を目指す職場では、聴覚障害者に対する理解と配慮を欠かすことなく、職人としての自覚と自立を促す取り組みがなされ、現在3名の聴覚障害者が働いている。

業種及び主な事業内容

伝統工芸家具、別注和洋家具設計製作、増改築内装工事請負業。

雇用聴覚障害者数 3名(うち重度3名)

主な職務内容:
◎キッチン、洗面化粧台、クローゼット、カウンター等家具製作
◎伝統工芸無垢材家具、店舗什器家具設計製作

改善策 紹介

1週間の作業工程表と 連絡事項を文書で配布 全従業員が確実に把握



▲堀さんの作業を見守る社長。

注目の 改善点 1

職場内外での伝達方法の改善

効果 トラブル解消につながり、現場でのコミュニケーションもスムーズになった。

これまで、毎週月曜日に行われていた朝礼では、伝達事項を口話で伝えていたが、時間を要するだけでなく、指示内容を十分に伝えることも難しかった。

それを改善するために1週間の作業工程表と連絡事項を文書で配布することで、伝達事項が正確に伝わり作業もスムーズに進めることができた。

作業工程表は聴覚障害者に限らず従業員全員が確実に工程を把握できる効果を生むことになった。繁忙期にも対応できるように作業工程表には数量、仕様、納期の項目に加え、各工程の作業担当者、時間、用法等を記入して指示

内容の明確化を図った。

現場で作業する聴覚障害者への指示・連絡体制にも工夫がされた。聴覚障害者1名と健聴者2名の3名体制を組み、1名の従業員が現場からの指示、変更内容を伝達することで発注者や他社の従業員とのトラブル解消につながり、現場でのコミュニケーションもスムーズになった。

このように従業員の配置を工夫することで現場作業や出張作業にも積極的に出掛けることができようになり、業務の幅に広がりを見せた。

週間工程表

作業名	29日	30日	1日	2日	3日	4日
(アライエス) GODNA	●●●	●●	●	●	●	●
(+) シンノUCH	●●●	●●	●	●	●	●
(+) アフスター	●●●	●●	●	●	●	●
(本工務店) シンノスレー	●●●	●●	●	●	●	●
(和島障子) インターナル和島ビル	●●●	●●	●	●	●	●
(新築工務店) 山下邸	10月10日 下駄箱			●●	●●	●●
中野タニシ(イン) 2/2/2/2	10月6日 設置しカウンター			●●	●●	●●
(島精機) フォルタ 下カウンター	10月21日 搬入			●●	●●	●●
(アライエス) アライエス				●●	●●	●●

▲作業工程表。



▲作業現場で社長からの指示を受けている堀さん。

注目の 改善点 2

ペアで作業を徹底し、質問点はメモや図でフィードバックさせる

効果 質問の徹底と安全確認を自覚させることでケガ、事故を防止。

最初に工具使用の要領、保守を確実に教示するためにペアで作業を徹底した。機械、工具類の取扱いについて実技指導し、質問点はメモや図により聴覚障害者にフィードバックを徹底させた。電動ノコギリなどの機械作業に入る前には、必ず手の置き方、手押しによる木材の流し方の順序を繰り返し説明。また、音による機械の不具合を感じできないこともあり、より慎重な機械操作を心掛けさせた。「道具類は職人の命であり、その扱いは自己責任に任せる」とし、安全面での自覚を促した。徹底した安全管理によりこれまでケガ、事故はない。



▲リーダーの鈴木さんと後輩の堀さん。

注目の 改善点 3

技能検定挑戦へのサポート

効果 一級技能検定への合格、障害者技能競技大会日本代表として卓越した技能を発揮。

株式会社山ノ木では、家具製造は一生の仕事として続けられ、健聴者とハンディのない職種であることを伝えていく。また、技能競技大会や技能検定に挑戦する機会を積極的に提供し、家具職人としてさらなる成長を促している。

技能検定の準備のために、実技の練習を行い、学科試験に備えて手話通訳士の派遣を依頼し知識習得をサポートし

ている。

スキルアップの成果として、現在2名の聴覚障害者が一級技能検定(家具手加工作業)に合格。そのうち1名は障害者技能競技大会(アビリンピック)の世界大会において家具部門日本代表として出場している。卓越した技能を身につけ、家具職人として活躍している。



▲家具1級、2級技能検定合格の楯。



▲数々の表彰状。

▲一級技能士の認定書。

INTERVIEW

管理担当者の声



代表取締役社長
和中 輝雄さん

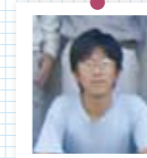
作業指示が正しく伝わらないのは健聴者の責任。職人たるものに教えられるようになったら一人前。

最近の若い人にも言えることだが、職場内のコミュニケーション不足を感じている。社会に送り出す教育機関などにおいて、手話学習のみならず他のコミュニケーション手段(メモでの指示確認などの方法)も併せて身につけてほしい。

健聴者とハンディがない職種で、一生の仕事として希望の与えられる職場にしていきたい。

職場レポート

従業員の声



堀 健次さん

まだまだ先になるけれど、先輩を見習って一級技能士検定に挑戦したい。分業作業ではなく、最初から最後まで一人で仕上げないといけないので大変だけれど、働き甲斐があります。



山原 耕一さん

まだまだ先輩との差はありますが、早く追いつけるよう努力し頑張っていきたい。いろんな家具を、チャレンジャーとして製作していきたい。



鈴木 真道さん

これからも使ってくれる人が楽しくなるような家具を製作したい。年齢に関係なく、一生の仕事としてできる場所まで頑張りたい。